

昭和・戦前の天王寺



市バスと青バス

市バスと青バス

市営バスは昭和2年阿倍野～平野間に開通したのが最初ですが、大正13年に既に運行していた民営の大阪乗合自動車との間で激しい乗客の奪い合いがありました。車体の色から市営バスは銀バス、民営バスは青バスとよばれました。昭和15年に「市内交通は市営で」という方針から青バスが買収され市バス一本となりました。

旧区役所庁舎

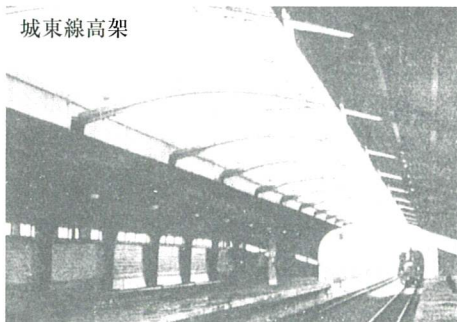


毘沙門池の埋め立て

旧区役所の新築移転

旧天王寺区役所の庁舎は天王寺財産区がその所有する毘沙門池を処分し、昭和2年3月起工、同年12月に完成しました。総工費19万3千余円で、当時としては建築科学の粋を集めた堂々たる建物でした。

城東線高架



戦前の下味原交差点



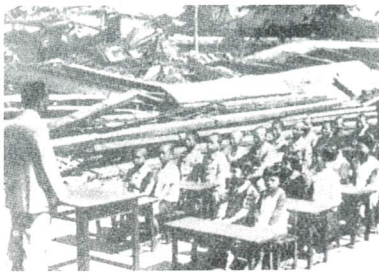
鉄道網の拡充

鉄道の発達はさらに進み、昭和4年に阪和鉄道（現JR阪和線）の天王寺・府中間が開通。上本町でも昭和6年参宮急行（現近鉄）が宇治山田までが全通しました。城東線でも高架工事が昭和7年に完成、8年には電車運転を開始、市電網も一段と充実しました。

昭和・戦前の天王寺



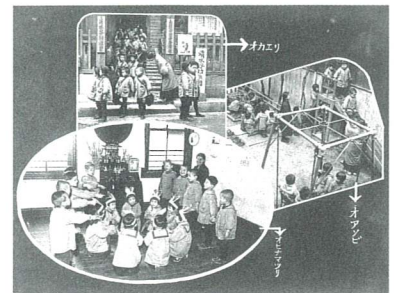
五重塔崩壊



露天教室

室戸台風

昭和9年9月21日に襲った室戸台風は大きな被害をもたらしました。天王寺区内でも各所で校舎の倒壊があったり、四天王寺の五重塔が倒れ、圧死者も多く出るという有様でした。復旧もなかなかはかどらず、校庭のかたすみで露天教室が進められたりしました。一方この台風の経験から校舎などの鉄筋化がさげばれ、続々と竣工されていくことになりました。



幼稚園のアルバム(昭和14年)



清水谷公園での園児達のおゆうぎ
(昭和16年)

戦争・空襲

日華事変がおこるとにわかに戦時色が強まってきました。校庭での救護訓練なども行われるようになりました。太平洋戦争が始まると、真田山に高射砲陣地、上六大軌ビルに防空監視哨などが置かれました。戦争が進むと建て物のとりこわしや学童疎開なども行われるようになりました。昭和20年3月13日の大空襲では天王寺区の大半が焼かれ、たくさんの死者を出しました。四天王寺の五重塔が炎につつまれたのもこの時です。



タンカ救護訓練(現四天王寺学園)



炎上する五重塔



廃品献納



空襲